

2022年3月30日

## ロシアによるウクライナ侵攻後の NEANET の活動&個人的な動き

NEANET 理事

鈴木 勝

日増しに激化するロシアのウクライナ侵攻は、長期戦の様相を呈しており、世界から厳しい非難を受け、対露経済制裁でじわじわとロシアは窮地に陥りつつある。一方、制裁側の国々も深刻な経済状況となっている。この状況で、私の属する NEANET による活動も、現在の行動態様を変更させる必要がある。同時に、個人的な行動を変えなければならないと思う。

当 NEANET 活動は、日本、中国、韓国、モンゴル、ロシア極東、北朝鮮などの「北東アジア圏」で、「効率的な物流ネットワーク」を築き上げ、同時に「自由な人の往来」を促進させる目標を掲げてきた。私は「自由な人の往来」、即ち、観光客のみならず、ビジネス交流、若者交流などの活発化を目論み、NEANET 姉妹組織である「北東アジア観光フォーラム (IFNAT)」と協力し、ささやかな力を尽くしてきた。毎年、意欲ある大学生と共に、例えば、ハバロフスク、ウランバートル、ソクチョ (東草) などを訪問。また、個人的には、近年はロシアにシフトし、外務省関連組織と連携し、地域活性化を目指し「モスクワ・サンクトペテルブルグ⇄サハリン・カムチャッカ半島」まで 15 都市以上で、(日本側出資による) 観光講義を行ってきた。

「物流ネットワーク」を機能させるには恒常的な「人的交流」が不可欠だと、50 年の実業と学術の経験から固く信じ実践してきた。しかしながら、今次のウクライナ侵攻の非人道的行為に強く抗議するため、NEANET、IFNAT のロシアへの好意的な活動は中止すべきである。当然、個人としても行わない。プーチン体制を擁立してきたロシア国民にウクライナ侵攻の責任を、今後長い年月、背負ってもらわなければならない。将来、ロシアが世界の望む方向に進むならば、改めて、従来の方針に戻ればよい。

とはいえ、NEANET や個人的な行動として、機会を捉えて積極的に接触して行く必要がある。なぜならば、日露交流は、2019 年に双方でわずかに 23 万人ほど (訪露日本人 : 訪日ロシア人 = 112,000 人 : 120,043 人) で「隣国でありながら極めて少ない交流」であることだ。多くのロシア講義や討議から痛感したことは、官以上に民間レベルでの意思疎通が欠けており、「行き違い&誤解」が多いからで、特に、日本人の真意が伝わっていない。以上は日露間であるが、危機的な感情は「日中」や「日韓」でも存在し、NEANET、IFNAT、そして、個人的にも、交流を続け社会に発信する必要がある。

以上